

自主事業

自主事業は、ベネッセこども基金が企画・実施し、子どもたちを支援する事業です。
志を同じくする方々と共に、4つのテーマに取り組んでいます。

病気・障がいを抱える子どもの学び支援

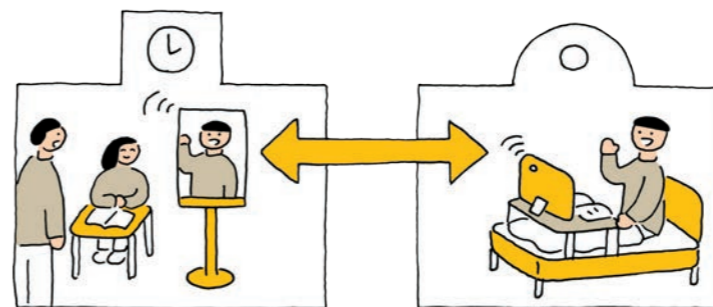
子どもの安心・安全を守る活動

経済的困難を抱える子どもの学び支援

よりよい社会づくりにつながる学び支援

取り組み

ICTで、入院中・療養中でも学校とつながれる遠隔授業の実施



話げてきてうれしい!

7年間にわたり、病院や自宅にしながら授業を受けられたり友だちと交流できる環境づくりに挑戦してきました。

7年間の取り組み

2015年度～2019年度

分身ロボットOriHimeで「通学」する取り組み

東京都の病弱教育拠点5校と連携し、分身ロボットOriHimeを活用した学び支援のプロジェクトを実施。病室にいる子どもたちが、OriHimeを通じて授業に参加したり同級生との交流をするなど、5年間で400回のケースを積み重ね、東京都で予算化もされました。

子どものしぐさを表現できるOriHime。より一緒に学んでいる感覚に。



OriHimeを通じて卒業式にも参加



2020年度～2021年度

教室と病気の子どもを「確実につなぐ」取り組み

継続した学習を行うために、より安定した通信環境を提供することで、子どもと教室を確実につなぐ事業を実施。療育や医療の専門家とともに、特別支援学校へwifiを提供、33校28事例の授業実践をしました。



移動できるアバターロボット「temi」を通じて、同級生とともに教室を自在に移動。

2022年度

汎用的な「学び支援モデル」の創出及び拡大の3か年プランに着手。

より学校に導入しやすい汎用モデルをつくり、特別支援学校への導入を拡大するために、ITスキルの高い一般財団法人ニューメディア開発協会と共同事業を開始。汎用モデルを模索し、成功事例を積みあげる年に。

病気・障がいを抱える子どもの学び支援

PICK UP

ICTを活用した学び支援

現状と課題

病気そのものや、同世代の交流機会・体験不足からくる不安

治療や療養生活に対する不安

治療自体のつらさや治療による容姿の変化など、自分ではコントロールできないことが続くことでの無力感などが起きやすくなります。

成長する中での不安

思うように活動できないことによる意欲の減退や、自信喪失により、様々な事柄に対して消極的になりやすくなります。

経験不足からくる不安

同世代の子どもたちと比べて、遊びの体験や行事などに参加する体験の機会が少なく、社会経験が不足しやすくなります。

取り組み事例

「学び支援モデル」の模索と成功例の積み上げ

2022年度は、IT技術で先駆的な(一財)ニューメディア開発協会とともに、ICTを活用した学び支援に理解や意欲のある特別支援学校11校と連携し、アバターロボットの事例の積み重ねや、メタバースを使ったトライアルを実施。



Avatar Robot アバターロボットでまなびに参加

用途に合ったタイプのアバターロボットを駆使し、病気の子どもたちが病院や家から授業に参加。先生方の粘り強い取り組みと様々な工夫で、子どもたちの笑顔がはじけました。

自走型アバターロボットとお買い物

京都市立呉竹総合支援学校/京都市立桃陽総合支援学校連携(課外学習)

心臓などの障がいや外出が難しい高等部の生徒たちが、自走型アバターロボット「temi」を使い、買い物をした体験をしました。「temi」を通じて、商店街の人たちと会話をしたり商品を選んだり。「好きな食べ物を買うことができた」「色々な人と挨拶ができた」と、学校から出ることが難しい生徒達の経験値をあげることができました。

自由に移動ができて、どこへでも行ける!



先生、ポテトチップスが買いたい!



オッケー、お菓子屋さんに行ってみよう!

可搬型アバターで「家から冬をさがしにいこう」

大阪府立刀根山支援学校(課外学習)

心臓移植後に在宅療養をしている小学1年生が、アバターロボット「Telepii」と公園で冬を探す生活科の授業に。手軽な「Telepii」で、高い位置の観察も楽々。外出できない状況でも、冬の木々の様子など細かく観察することができました。途中、国語で学習した「はたらく車」を見つけて、より授業が深まりました。



可搬型アバターロボット Telepii

360度、見たいところが見られる

枯れ木に見えていたけどつぼみがついている!



▲先生が風景を中継



▲屋内から操作して観察

アバターロボットの利用事例はこちらからも!



Metaverse メタバースで学校自慢

アバターになってどこからでも参加できるメタバース空間。先生や子どもたちの趣向を凝らした展示会が開催されました。

先生の「学校自慢島」

特別支援学校の先生がたが、メタバース上に3Dの島を作り、学校自慢をする「学校自慢島」。ネタを仕込んだり、ほかの学校の表現にライバル心を燃やしたり、楽しみながらコンテンツを作りました。全くやったことのない先生がたも活動を通じてスキルアップ!できるようになるともっとやりたいと思うのは大人も子どもも一緒のようです。

マスコットのいる
光陽島
大阪府立
光陽支援学校



真ん中にいるのがマスコット「こうやん」です!

名所を設置した
桃陽島
京都市立
桃陽総合支援学校

まっすん大仏像



願いの像

先生が扮した大仏、願いの像、たくさん名所があって盛り上がっています。

「宝物島」でかくれんぼ

子どもたちが作った作品や宝物が展示されている「宝物島」。観客はアバターになって自由に見ることができます。特大サイズになっている作品は、中に入ったり裏に回ったりもでき、かくれんぼもできます! 自分の作品が3Dになったり迫力満点で展示されている様子に子どもたちも大喜びでした。

宝物島
狛江市立狛江第三小



迫力満点! みんな輝いています。

アバターを、病気や障がいを乗り越える力に



一般財団法人
ニューメディア開発協会
新情報技術企画グループ
グループ長
林充宏 さん

取り組みを通じて

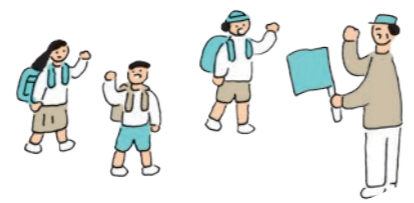
生まれながらに歩けない子どもが、メタバース空間で「先生、ぼく、この中で走れるんだよね!」と。このシーンは本当に感動的でした。最新ICTを使い、いろいろな事情で活動範囲が限られている子どもが笑顔になり、ソーシャルスキルアップにつながるのが私どもの活動です。

2023年度に向けて

デジタルで誰一人取り残されない共生社会の実現を目指し、「特別」な支援が必要な子どもだからこそ体験できる「特別」な「最新ICTを使ってのワクワクドキドキの世界」を皆さまとつくりたいです。

子どもの安心・安全を守る活動

教育プログラムを、学校などへ無償提供



子どもの安心・安全な環境づくりのための支援プログラムの無償提供を、財団設立当初から実施しています。ネット利用の低年齢化により、学校現場からのネットリテラシー教育へのニーズが高まっています。

<p>防災 保育園・幼稚園向け</p> <p>防災教育紙芝居「じしんのときのおやくそく」</p>	<p>防犯 小学校低学年向け</p> <p>子どもの安全・安心ハンドブックと安全教室実施パッケージ</p>	<p>ネット 小学校中・高学年向け</p> <p>初めてのスマホ安心ガイドブックと安全教室実施パッケージ</p>
---	--	---

シリーズ累計のべ約 **120万部*** ※2023年3月時点

2023年度は 学校現場以外も含め、より多くの方に活用いただけるよう、引き続き普及の拡大を目指します。

経済的困難を抱える子どもの学び支援

「学びの質」向上につながる教材の普及と検証

経済的に困難な状況にある子どもの学習支援領域において、先進的な団体「認定NPO法人キッズドア」と連携して、「学ぶ意欲」と「言葉の力」の向上をねらいとした中学生向け教材を制作し無償配布。同じ課題を抱える全国の団体に活用いただきました。

KIDSDOOR 認定NPO キッズドア

連携

公益財団法人ベネッセこども基金

支援者の育成にも役立ったとお声も!

助成団体の共通課題の解決に貢献するために、知見あるセクターと協業して支援施策に取り組んでいます。

2023年度は 学びの質向上・課題の社会発信に取り組みながら、助成団体間の知見の交流を後押しし、団体共通課題の解決を支援していきます。

よりよい社会づくりにつながる学び支援

公教育におけるインクルーシブ教育の推進

5つの自治体の教育行政担当者とともに、視覚のない世界を体験する「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」などを通して、多様性を尊重し、それぞれに所属感のある学校の在り方を検討。「学校はマジョリティ優位な環境になっている」「大人側の意識が変わらないといけない」などの課題意識や、実践の提案が活発になされました。



先進的な取り組みを行っている団体とともに、子どもたちが、地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一員としての役割を果たすことができる力を育む活動をしています。

中高生による当事者研究と障がいの社会モデルの推進

株式会社リバネスが主催する中高生のための学会「サイエンスキャッスル」にて、教員向け特別セミナー「身近に取り組むダイバーシティ&インクルージョン研究のススメ」を開催。今まで個人の問題とされてきたマイノリティの困難を、中高生自身による「当事者研究」(自分研究)を通して社会で解決する試みを中高の教員の方々とともに実施していきます。



高校生英語ディベート世界大会の企画・運営

ベネッセこども基金では一般社団法人全国高校英語ディベート連盟 (HEnDA) の国際委員会と共同で、高校生英語ディベート世界大会 (WSDC) の日本代表チームの国際大会への派遣事業などを企画・運営しています。今年は、目標の一つであった予選トーナメント突破を見事達成し、世界大会で2年連続好成績を収めました。



2023年度は 2022年度に開始したダイバーシティ&インクルージョンをテーマにした取り組みを、自治体や学校で広がるように活動して参ります。